

第9期中札内村社会教育中期計画（案）

令和5年度（2023年度）～令和8年度（2026年度）



中札内村教育委員会

中札内村民憲章

わたくし達は雄大なポロシリ岳を仰ぎ札内川の清く流れるところ、
たくましい開拓精神を受けつぐ中札内の村民です。
郷土の輝く未来をになう心をこの憲章に表します。

- 1. 健康で明るい村をつくりましょう。
- 1. 生産を高め、豊かな村をつくりましょう。
- 1. きまりを守り、住みよい村をつくりましょう。
- 1. 互いに助けあって、幸せな村をつくりましょう。
- 1. 文化を育て、楽しい村をつくりましょう。

第7期中札内村まちづくり計画

まちづくりのテーマ

「みんなでつくる！自然と笑顔になるまち なかさつない」

まちづくりの基本目標

- 基本目標 1 みんなが主役のまちづくり
- 基本目標 2 優しさと安心が繋がるまちづくり
- 基本目標 3 文化と学びが紡ぐまちづくり
- 基本目標 4 元気あふれるまちづくり
- 基本目標 5 潤いと安らぎのまちづくり

は じ め に

中札内村教育委員会教育長 上 田 禎 子



目 次

第1章 第9期中札内村社会教育中期計画の策定にあたって

第1節 計画策定の意義	1
第2節 計画の名称・期間	1
第3節 計画策定の基本的な考え方	1

第2章 社会教育基本目標と推進の重点

第1節 社会教育基本目標	2
第2節 北の大地 なかさつない 共育宣言	2

第3章 第9期中札内村社会教育中期計画の内容

第1節 生涯学習の推進に向けて	3
(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習	
(2) 「中札内村共育の日」の理念	
(3) 社会教育中期計画の位置づけ（フロー図）	
第2節 社会教育	
(1) 少年教育（0～18歳）	5
(2) 成人教育（18～60歳）	7
(3) シニア教育（60歳以上）	9
(4) 家庭教育支援	10
(5) 社会体育	11
(6) 芸術文化・文化財	13
(7) 図書館活動	15
(8) 社会教育施設	16

参考資料

第1章 第9期中札内村社会教育中期計画の策定にあたって

第1節 計画策定の意義

これまで、第8期社会教育中期計画に基づき、文化創造センターや村民体育館、交流の杜を拠点とした生涯学習を推進してきましたが、急速に社会情勢が変化する中で、これまでに経験したことのない様々な課題が表出しています。

高度情報化や国際化が進み、利便性やグローバル化が進展する一方で、少子高齢化による生産年齢人口の減少や地球温暖化による気候変動、世界各地で頻発する国際紛争等、社会課題はより複雑化してきています。さらに、令和2年から続く新型コロナウイルスの世界的な大流行は、これまでの生活様式や社会全体の在り方を大きく変化させました。

こうした複雑で予測困難な社会を生き抜くためには、子どもから大人まで共に学び、自ら考え行動する力を育んでいくことが重要です。

第8期中札内村社会教育中期計画が最終年度を迎えたことから、計画を検証・評価し、社会情勢等の変化を踏まえながら、各世代に合わせた学習機会の提供や多様化する村民の学習ニーズに対応できるよう第9期中札内村社会教育中期計画を策定するものです。

第2節 計画の名称・期間

名 称 この計画の名称は「第9期中札内村社会教育中期計画」と称する。

期 間 この計画の期間は令和5年度（2023年度）から令和8年度（2026年度）までの4年間とする。

第3節 計画策定の基本的な考え方

第9期社会教育中期計画では村民憲章の精神を基本とし、また、社会教育基本目標の具現化を目指すとともに、村まちづくり計画との整合性を図りながら、村民一人ひとりが心豊かな人生を創造するための生涯学習社会の実現を目指します。

第2章 社会教育基本目標と推進の重点

第1節 社会教育基本目標

- ・家庭・学校・地域社会が連携し、子どもを育む「共育」の推進
- ・子ども達の生き抜く力を育む学びの推進
- ・子どもから大人まで、誰もが学べる環境づくりの推進
- ・心身を豊かにする文化・芸術活動の推進
- ・健やかな心身を育むスポーツ・健康づくりの推進

第2節 北の大地 なかさつない 共育宣言

スローガン『子どもの笑顔はみんなの元気 かわいいからこそ甘やかさない』

- ・あったかい家族の絆を深める
- ・規則正しい生活習慣を身につける
- ・地域の共育力で子どもを育てる
- ・品格ある大人に育てる
- ・自然や大地の良さを伝える

第3章 第9期中札内村社会教育中期計画の内容

第1節 生涯学習の推進に向けて

(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習

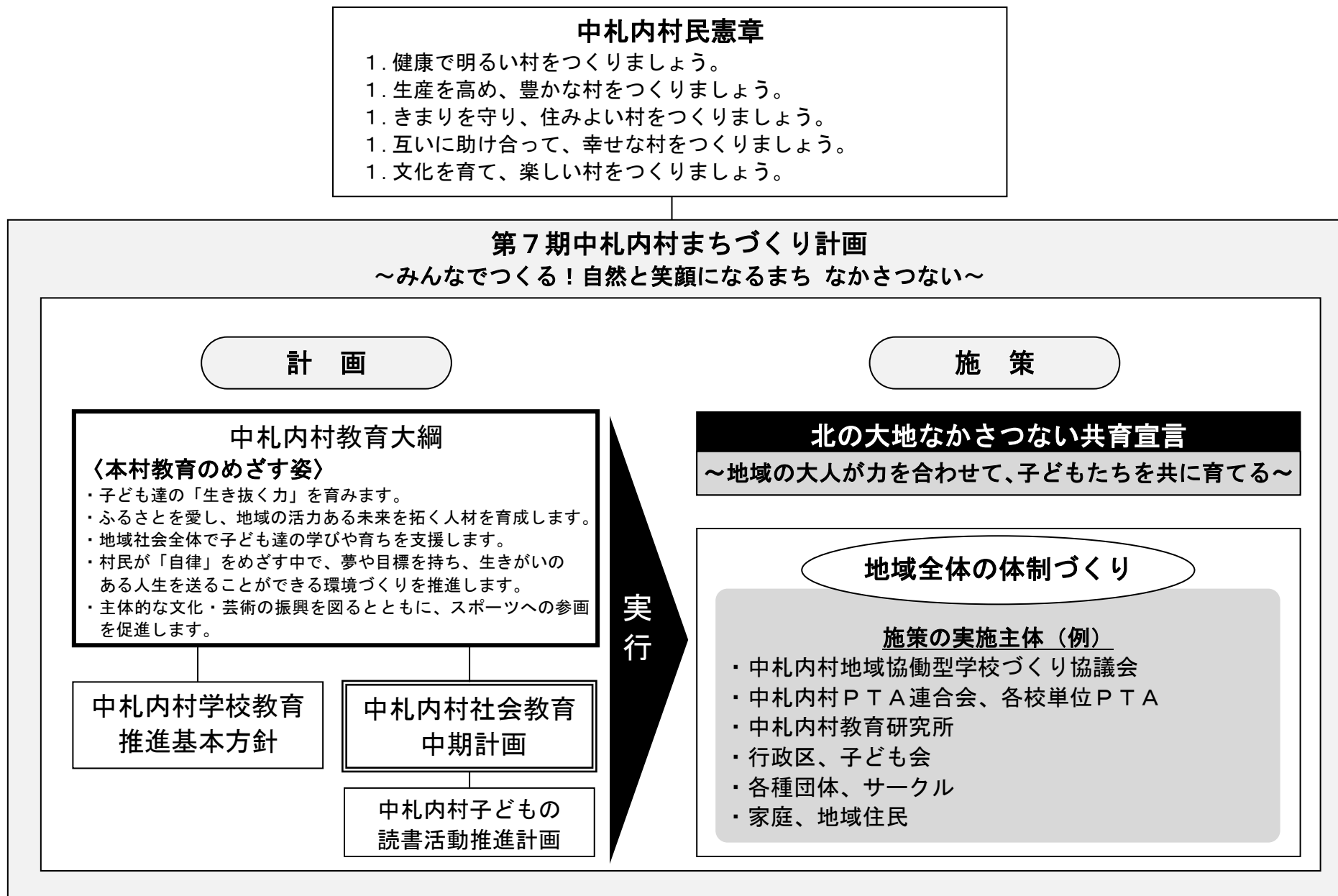
「生涯学習」とは、私たちが生きがいのある充実した生活を送るために、自分が学びたいことを、自分に合った手段で、自由に、楽しく、生涯にわたって学んでいくことです。また、学習した成果を様々な場面で発揮できる社会のことを「生涯学習社会」と言います。

人生100年時代に向けて社会が大きな転換期を迎える中、地域づくりを支えていく力として生涯学習の重要性は一層高まっており、生涯学習推進の中核を担う社会教育もこれまで以上にその役割を果たすことが期待されます。急速な社会環境の変化の中にあって、村民の主体的な活動を促進し、共に持続可能な地域社会の実現に向けて学びを深化させていくことが重要です。

(2) 「中札内村共育の日」の理念

教育は学校教育だけで完結するものではなく、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力が不可欠であることから、本村では平成22年4月に「中札内村共育の日」を制定しました。村民が中札内村の教育に関心を持ち、家庭・学校・地域で共に育てる人づくりを進めます。

(3) 社会教育中期計画の位置づけ（フロー図）



第2節 社会教育

(1) 少年教育 (0～18 歳)

～現状・課題～

A I (人工知能) や I o T¹等のデジタル技術の進歩によってグローバル化が進展する中で、経済・社会情勢の変化に積極的に向き合い、未来の社会を切り拓くための資質能力を育成することが求められています。特に「知識及び技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性の成長」の3つをバランスよく育むことが重要です。

家庭・学校・地域・行政が協働し体験的な活動はもとより、子どもの発達段階に応じて調和のとれた「生き抜く力」を育むことが課題となります。

本村においては、自然体験活動のジュニアアウトドアスクール、地域間交流の富山県南砺市自然体験交流事業と埼玉県川越市中学生との交流事業、青少年国際交流派遣研修事業、キッズ・イングリッシュ事業を実施しています。

また、子ども会育成連絡協議会と連携し、地域の大人が子どもに関わり交流することを目的とした野外レクリエーションを開催するなど、幅広い事業展開を行っています。

地域の大人と子どもたちの関係の希薄化や家庭や地域の教育力低下などの課題にも対応するため、共育の日事業の理念である「地域の子どもは地域で育てる」といった意識の醸成、地域を巻き込んだ子育ての取組を推進し、地域全体で子どもを育てる事業を展開する必要があります。

～課題を解決するための主要施策～

○ジュニアアウトドアスクール

小学校3・4年生を対象に、親元を離れ野外炊飯や自然体験活動を通じ、自分の身のまわりのことは自分で行い、仲間と協力してプログラムに取り組むことなど、普段の生活では培うことのできない自然体験や生活体験活動の充実を図ります。

¹ IoT (Internet of Thing) …家電製品や自動車などをインターネットに接続することで、利便性を向上させ新たな価値を創り出す仕組み

○国内外の市町村との交流事業

お互いの文化や風土の違いなどに触れ、児童・生徒同士が交流し合い、コミュニケーション能力や、自ら考え判断し行動できる自主性・自立性を育む機会として実施します。コロナ禍のような厳しい状況においても交流が継続できるよう、交流先と連携して事業内容等について再検討します。

○広域連携事業

舞台鑑賞を通じて芸術に対する理解を深めることを目的に、中札内村と更別村が合同で芸術鑑賞事業を実施しています。両村の地域課題に即した公演内容を検討する等、より一層の充実に努めます。

○子ども会育成連絡協議会

少子化の影響などから住民と子どもたちが関わる機会が減少しています。行政区での子ども会の未組織化や活動の低迷などの対策として、単位子ども会やポロシリ大学との交流の機会を増やすなど、地域が関わりながら子どもを育てる事業を展開します。

○高校生のボランティア活動

ジュニアアウトドアスクールや富山県南砺市自然体験交流事業（受入）における子どもの活動支援が、これからのまちづくりを担う人材育成につながることから、過去に参加者であった高校生を核として、積極的に協力を呼びかけます。

○キッズ・イングリッシュ事業

英語の授業がない小学校低学年時から、気軽に英語に触れる機会をつくることを目的に実施しています。英単語を使ったゲーム等で楽しく英語を学ぶことで、英語に興味をもって授業に臨める環境づくりを目指します。

（２）成人教育（18～60 歳）

～現状・課題～

成人期は、家庭や地域などにおいて社会的役割の中心を担う年齢層であり、生活課題や地域課題を解決するための学習活動や地域活動に積極的に参加することが期待されます。しかし、仕事や家庭での役割により時間の制約があるなどの理由から、地域づくりの中核的役割を担う世代でありながらも、活動の活性化が十分に図られない状況にあります。

本村では、村民の学習ニーズに対応するため、自主企画講座への支援や各種講座を開催しており、学習内容は趣味や文化、教養に関するもの等多岐にわたります。それらの学習機会を契機に、まちづくりの担い手となる人材を育成していく一助としていきます。また、地域の教育力、団体活動での指導者不足や会員の減少、高齢化が課題として挙げられていることから、後継者を育成するための学習機会や情報提供等を行っていく必要があります。

～課題を解決するための主要施策～

○社会教育活動振興助成事業

自主的な学習活動の支援と学習機会の提供として、運営費用を助成し、次世代のまちづくりを担う人材育成を図ります。今後も多様化するニーズを把握し、村民同士のつながりや学習機会の確保に努めます。また、気軽に利用してもらえるよう制度を周知します。

○20 歳を祝う会

20 歳になった若者の輝かしい門出を社会全体で祝福するとともに、社会を構成する者としての責任と義務を自覚する機会を提供し、地域のまちづくりの担い手であることの意識の高揚を図ります。

○生涯学習講座

学習意欲の醸成やサークル活動等のきっかけづくりを目指し、年間を通じて講座を開催します。

○学校支援ボランティア

学校教育活動での地域の教育力の活用や、学校・家庭・地域の協力による子どもたちを育てるための組織づくりを推進し、地域全体で学校を支える体制を整備します。

（３）シニア教育（60 歳以上）

～現状・課題～

医療技術の進歩などにより日本人の平均寿命が延びた一方、出生率の低下等による「超高齢社会」の中で、シニア期を迎える方々の知識や経験の更なる活用が求められており、地域の教育への還元や伝統文化等の継承活動による担い手としての活躍が期待されます。

本村においては、シニアへの各種学習機会の提供や異世代交流、他地域との文化交流などを進める事業の一環として、60 歳以上を対象とした「ポロシリ大学」を開講しています。この事業では月 1 回の定例授業をはじめ、学生同士の学習と交流を目的としたクラブ活動などを実施しています。また、それぞれが学習した成果を発表する機会として、村民文化祭での舞台・展示等での発表や小学生との交流会での披露、他地域での発表などを行っています。

新型コロナウイルスによる外出自粛傾向は、高齢者にとってフレイル（虚弱状態）等の健康二次被害を引き起こす危険性も持ち合わせています。また、コミュニティに参画することが孤立感を和らげ、ストレスを緩和させることから、高齢者の外出機会を創出するポロシリ大学の役割は、今後ますます大きくなり、健康長寿を目指す上で大変重要です。

～課題を解決するための主要施策～

○ポロシリ大学

高齢者の外出機会の創出は重要であることから、クラブ活動や定例授業を通じて学びや交流の機会を確保するとともに、他地域の高齢者大学や他団体との交流機会を提供します。また、シニアが持っている知識や経験を活かしたボランティア活動など、次世代へ伝承する取組の機会を増やし、生きがいを感じながら活動できる場の提供を行います。

（４）家庭教育支援

～現状・課題～

家庭教育はすべての教育の出発点であり、子どもが基本的な生活習慣や生活能力、豊かな人柄、周囲を思いやる気持ちや善悪の判断などの倫理観、自立心や社会的マナーなどを身に付けていく上で重要な役割を担っています。しかし、インターネットやスマートフォンの普及、核家族化や共働き家庭の増加等、家庭内の状況や課題は大きく変化しています。

こうした背景のもと、学校・家庭・地域がそれぞれの責任と役割をもって子どもたちを共に育てる「共育」を推進していくため、地域協働型学校づくり協議会（コミュニティスクール）を核として、加速度を増す社会の変化に対応できる子どもを育てていくことが重要です。

また、保護者の抱える課題や悩みは多様化していることから、PTA やスクールカウンセラー等と連携を図りながら総合的に支援していく必要があります。

～課題を解決するための主要施策～

○地域協働型学校づくり協議会（コミュニティスクール）

地域の大人が力を合わせて子どもたちを育てる「共育」の意識醸成のため、保護者や子どもを取り巻く地域課題等を共有し、教育講演会を開催します。また、CSアクションプランにおいて、家庭における教育の目標を明示し、達成に向けた取組を実施します。

○連携による家庭教育支援

子どもを持つ家庭で悩みや不安が多様化している中、PTA などの保護者組織、教育研究所との連携を進めることで、家庭での課題を把握し、課題解決のための家庭教育支援を図ります。

（５）社会体育

～現状・課題～

近年の社会的要因による精神的なストレスの増大や、日常生活において体を動かす機会が減少し体力が低下するなど、心身両面にわたる健康上の問題が表面化している状況の中で、スポーツやレクリエーションを生活に取り入れることで、健康な体づくりや体力の向上だけではなく、生きがいや生活に潤いをもたらすとともに、住民相互の交流や連帯感の形成が期待されます。

また、新型コロナウイルスの影響で、多くの村民が自粛を経験したことによって、改めて運動や健康づくりの重要性が認識されるきっかけとなりました。今後、保健事業と連携しながら、誰でも・いつでも・どこでも気軽に運動できる機会を提供し、生涯スポーツの環境づくりを進める必要があります。

スポーツ振興奨励事業では、大会参加に係る旅費・講演会やスポーツ大会等の開催・スポーツ振興に係る研修等の費用を助成しています。

スポーツ少年団本部補助事業は、スポーツ少年団事業の目的である青少年の健全な心身の育成のため、各単位団が自立した運営を図れるよう引き続き支援していく必要があります。また、運動系の部活動の地域移行を視野に入れた検討を進めていく必要があります。

村民スポーツ大会は、実行委員会が主体となり年間８競技を実施していますが、村民のニーズが競技型スポーツから個人での健康志向スポーツに変わっているなどの理由から、ニーズに応じた大会内容を今後も検討していく必要があります。

～課題を解決するための主要施策～

○スポーツ振興奨励事業

各種大会参加に係る経費の助成を拡大し、広報紙等での制度の周知、関係団体への情報提供を行います。また、スポーツ団体の活動費用を一部助成します。

○スポーツ少年団本部補助事業

少年団本部と連携し、単位団の自主的な活動を支援するとともに、住民が積極的に少年団活動に関わることができるよう、指導者資格に係る取得費用の助成を行います。

○村民スポーツ大会事業

スポーツを通じた村民の交流の機会を確保し、あらゆる世代がスポーツに親しめるよう内容を随時検討していきます。

○学校開放事業

学校教育に支障がない範囲で、村内小中学校の体育館を村民の交流の場として開放します。

○運動教室事業

保健事業と連携し、村民の健康な身体づくりにつながる講習会や教室を開催します。

（６）芸術文化・文化財

～現状・課題～

村のキャッチフレーズである「アートの村」づくりを進めるため、村民が文化・芸術活動に参加し、感性を豊かにすることが重要です。

住民への優れた芸術鑑賞機会の提供やハーモニーホールの有効活用を目的として、自主的な文化・芸術活動事業に対し、文化振興基金を活用した支援を行っており、近年では村民が自主的にコンサート等を企画する機会が増加しています。

平成30年度からスタートしたアート事業では、音楽大学や芸術大学と連携し、次代を担う子どもたちの情操を高めているほか、村民が気軽に音楽に触れる機会を提供しています。

文化連盟や各文化団体においては、会員の高齢化や新規入会者の減少などにより活動が縮小しつつあり、文化の継承活動の停滞が懸念されています。各文化団体と課題を共有し、活動の周知等を行っていく必要があります。また、文化系の部活動について、地域移行を視野に入れた検討を進めていくことが必要です。

文化財では、村指定文化財である杉村サイロの保存と元更別大国神社石見神楽保存会への支援を行っており、今後も保存や支援を継続するとともに、歴史的価値や活動の周知に努める必要があります。また、埋蔵文化財保全への取組や十勝幌尻岳の名勝指定による保護精神の継承などを行っていく必要があります。

歴史ある農機具や生活用品などを保存している「からまつ館」については、村民文化祭シーズンに合わせて一般公開しています。

～課題を解決するための主要施策～

○アート事業

音楽と芸術の融合を目指したアート事業では、現役の芸大生や音大生と子どもたちが交流する「子どもアートプロジェクト」と、村民が音楽を通じて心の豊かさを実感することを目的とした「なかさつ音まちプロジェクト」を展開しています。今後は村民と共に、世代や音楽のジャンルを超えて、誰もが気軽に音楽の楽しさを実感できるコンサート等を企画します。

○文化振興奨励事業

村民が自主的に企画するコンサートやイベント等に係る経費の一部を助成します。また、各種コンクール等参加に係る経費の助成を拡大します。

○文化賞等の表彰

優秀な文化活動を顕彰するため、文化賞及びジュニア文化賞等の表彰を行い、村の文化普及振興を図ります。

○文化連盟事業

村の各文化団体や十勝管内の文化団体との連携や交流によって、文化活動の活性化を図ります。また、会員の高齢化や後継者育成の課題を共有し、活動内容を村民へ周知する等、連盟として一体的な取組を行います。

○村指定文化財の保存

杉村サイロ（有形文化財）、元更別大国神社石見神楽保存会（無形文化財）に対する支援を行い保護・保全に努めます。また、活動内容等については村民にわかりやすく周知します。

○からまつ館の公開

村民文化祭シーズンに合わせた公開を継続し、広報紙等による周知を行います。

（７）図書館活動

～現状・課題～

図書館の運営のほか、保育所や小学校、児童館での読み聞かせや巡回図書、移動図書、ブックスタート事業、ブックフレンド事業、企画事業やボランティアによる活動など、より充実した活動が行われています。

令和３年３月に策定した「子どもの読書活動推進計画」に基づき「子どもの読書活動推進協議会」で情報共有を図り、読書を通じて子どもたちの健やかな成長を願い、保育園、学校等の読書・図書館活動と連携した取組を進めています。

時代の変化や利用者のニーズに的確に応えるため、充実した図書館運営を維持する必要があります。

～課題を解決するための主要施策～

○子どもの読書活動推進計画

子どもの読書活動推進協議会を開催し、計画に基づく活動を推進します。また、時代のニーズに対応した計画であり続けるため、随時、計画の見直しを行います。ブックスタート事業やブックフレンド事業、読み聞かせ、学校図書館等への支援など、関係機関と連携を図りながら読書活動を推進します。

○図書館ボランティア活動

図書館事業の推進として、図書館事業での協力体制の確立や読み聞かせなどの自主的な活動を支援します。

○図書館の管理運営

利用しやすい図書館を目指し、幼児期から段階的に読書に親しめる事業を展開します。

（８）社会教育施設

～現状・課題～

生涯学習に対するニーズが多様化する中、その活動の場となる施設の計画的な維持及び整備をする必要があります。

文化創造センターは、建設から 25 年以上が経過しており計画的に修繕等を実施していますが、今後も適正な修繕や更新を継続する必要があります。

上札内交流館は、老朽化した設備等の機能改善や利便性の向上を目的に改修工事を実施し、平成 26 年 1 月 1 日からリニューアルオープンしました。利用促進のため、学校などに積極的な PR を行い、宿泊機能を利用した各種研修事業や地域の交流拠点施設として活用を図ります。

村民体育館（ファミリースポーツセンター）は平成 28 年度に耐震改修、村民プールは平成 29 年度に新築しています。また、平成 30 年度には旧中札内プールを屋内多目的運動施設として改修し、ゲートボールやテニス等で幅広く利用されています。

札内川総合運動公園や上札内パークゴルフ場は、本村の豊かな景観を感じながらスポーツができる屋外運動場として、パークゴルフやサッカー、野球等のスポーツに利用されています。今後も利用団体との連携を図りながら、適正な維持管理に努めます。

中札内交流の杜は、スポーツと文化・芸術の拠点施設として村内外から多くの方に利用されています。また、管理・運営に関しては、指定管理者制度による民間活力を導入し、宿泊施設と併せ充実した管理・運営を行っています。今後も、交流人口増加による経済波及効果の拡大を図り、本村のまちづくりに大きな役割を担う拠点施設として、事業展開を進める必要があります。

～課題を解決するための主要施策～

○施設整備の方向性

まちづくり計画実施計画に基づき、施設の適正維持及び整備を進めます。

○文化創造センター

公民館的機能を有した施設として、計画的な修繕や機器の更新を進めます。

○上札内交流館

各種媒体を利用した周知を行います。

○からまつ館

適正な保管に努め、村民文化祭シーズンに合わせた一般公開等を行います。

○中札内交流の杜

各種スポーツ大会や合宿の利用が多いため、指定管理業者と連携しながら適正な維持管理と計画的な施設修繕に努めます。また、研修棟については創作活動等の利用方法を周知します。

○屋内多目的運動施設

ゲートボールやテニス、冬季の少年団活動等の利用促進に努めます。

○村民体育館

体育館のトレーニング機器を使った運動教室を開催する等、気軽に身体を動かせる施設として利用促進を図ります。

○中札内村民プール「すいすい」

親子や子ども、成人等それぞれのニーズに合った水泳教室等を開催し、利用促進を図ります。

○札内川総合運動公園・上札内パークゴルフ場

各運動場の管理は、利用する団体や少年団と連携しながら適正な管理に努めます。

手をつなぐ 家庭・学校・地域社会 北の大地 なかさつない 共育宣言

【共育とは：地域の大人が力を合わせて、子どもたちを共に育てる】

スローガン

子どもの笑顔はみんなの元気
かわいいからこそ甘やかさない

品格ある大人に 育てるために

- ・正しい言葉づかいに心がけよう
- ・我慢することの大切さを教えよう
- ・ダメなものはダメと叱る勇気を持とう
- ・自分のことは自分でさせよう

規則正しい生活習慣を 身につけるために

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」を実行しよう
- ・テレビ・ゲーム・携帯電話のルールを決めよう
- ・家庭での学習習慣を定着させよう
- ・本を読む時間を増やそう

自然や大地の良さを 伝えるために

- ・地域の良さを語ろう
- ・恵まれた四季に親しむ知恵を伝えよう
- ・食の恵みを知り感謝しよう
- ・みんなで環境を守り未来につなげよう

地域の共育力で 子どもを育てるために

- ・地域で子どもの活動や体験の機会をつくろう
- ・社会のマナーを守り、子どもに生き方を示そう
- ・ボランティア・スポーツ・文化活動に共に参加しよう
- ・地域の力を学校に活かそう

あたたかい家族の絆を 深めるために

- ・いつも「おはよう」「ありがとう」を大切にしよう
- ・共に過ごす時間を増やそう
- ・みんなで家の仕事を分担しよう
- ・やさしい笑顔で大いにほめよう

中札内村 共育の日

平成22年4月制定



※「中札内村共育の日」とは、月日を特定する日ではなく、理念にもとづく取組の総称です。

～ 地域の大人が力を合わせて、子どもたちを育てる ～

理 念

先人のたゆまぬ努力と自立の精神を背景に築きあげた自然豊かな大地で、子どもたちが夢と希望にあふれ心豊かに育つため、村民が中札内村の教育に関心を持ち、家庭・学校・地域が絆を深め共に歩み自ら誇れる人づくりを進めます。

趣 旨

子ども一人ひとりが社会の中で義務や責任をしっかりと果たしていける大人になるよう、また、将来を担う子どもたちが夢と希望にあふれ心豊かに「生きぬく力」を身につけられるよう、地域の子どもは地域で育てる意識を喚起し、家庭・学校・地域が一体となり教育の日を定め、地域の大人が力を合わせて子どもたちを共に育てるため、教育に対する関心と理解を深め、行動することを目指します。

方 策

家庭・学校・地域社会が手をつなぎ、厳しさと優しさのバランスを保ちながら、地域の大人が力を合わせて未来を担う子どもたちを、心豊かで自律し責任ある大人になるよう共に育てます。(共育宣言)

- ・ あったかい家族の絆を深める。
- ・ 品格のある大人に育てる。
- ・ 規則正しい生活習慣を身につける。
- ・ 自然や大地の良さを伝える。
- ・ 地域の教育力で子どもを育てる。

取 組

- 11月3日(文化の日)に「中札内村共育の日」セレモニーを実施します。
- 家庭での約束(我が家の約束)の推進
- 職場での共育宣言掲示(理解と協力)



お問合せ先

中札内村教育委員会 教育グループ TEL 0155-67-2929